

## 中国風水と住環境

—台湾における実証的研究—

村 田 明 久\*<sup>1</sup>蕭 景文\*<sup>2</sup>・王 麗華\*<sup>3</sup>・張 金水\*<sup>4</sup>The Reference of  
Chinese Whu-Shui/Resident Circumstances  
—On-the-spot Investigation in Taiwan—

Akihisa Murata

Shiao Ching Wen・Wang Li Hwa・Chang Chin Shui

## CONTENTS

1. 風水研究の目的と方法
2. 風水概念と住環境
3. 風水の理想郷
4. 風水環境の類型
  - (1) コの字型(三合院)とアンバランス
  - (2) 陰陽, 包と反
  - (3) 逆水と順水
  - (4) 突きあたり(路沖と剪刀地), 巷路(凹風)
  - (5) 地形の五行, 方向の五行
  - (6) 類物化
5. 風水の実例
6. 謝辞と参考文献

1. 風水<sup>(1)</sup>研究の目的と方法

古来, 中国では人間環境を構築するのに風水思想が多大な影響を与えてきた。この風水思想に対する人々の反応は信じる人から信じない人まで様々なのであるが, 中国本土, 香港, 台湾, 韓国, 日本(とくに沖縄), ベトナムなどで今なお存続していることも事実である。東洋の思想ともいえる風水は, 近代社会を成立せし

めた西洋科学とは様相を異にしている。人間は自然と順応して調和してゆかねば, いずれは大自然の力にふれて破綻してしまうという徹底した考え方を特長としていて, 自然の人間の生命支配さらには人間の命運をも支配するものと考えられた。

そのため, 風水は欧米人から, 「準科学的な組織」<sup>(2)</sup>(デ・フロート), あるいは「遠大な擬科学」<sup>(3)</sup>(ジョセフ・ニーダム)として規定されている。またその内容については, 「『易経』において見るかぎり, 中国精神はもっぱら事象の偶然性に関心を集中しているようにみえる。この独自の精神の主たる関心はいわゆる暗合であって, われわれ(西洋人)の金科玉条である因果律にはほとんど注意が払われていない」<sup>(4)</sup>(C・G・ユング)と現実の様態に関心を寄せる中国賢者を西洋と対比させたり, 「風水説は地理科学の如くその目的を達するに学理に精通するを要することは同様であるが, その実際応用の段に至っては自づから差を生じ, 前者の労する所なくしてただ運を天におまかせするのに反し, 後者はあくまで労働を以て之に臨まなければならない。」<sup>(5)</sup>(村山智順)のように近代科学との応用面での差が指摘されたりしている。

いずれにしても, この風水説のごとき自然法則をまると観照するような東洋独自のとらえ方が意味ある

\*<sup>1</sup> 長崎総合科学大学建築学科講師   \*<sup>2</sup> 同 建築学科学学生  
\*<sup>3</sup> 同 管理工学科経営コース学生   \*<sup>4</sup> 台中市在住, 地理師  
1984年6月15日受付

と考えることも否定できまい。そこには現代にも十分通用する科学的真理を発見することもできる。とくに大局的に形をとらえたり、自然の人間支配観から出た安心できる住環境づくりは、わかりやすく示唆に富んでいる。

本研究は、風水思想から住環境計画のための基礎的知見をえようというものであり、実地の風水環境についての科学的理解に努めている。研究の大きなねらいとして、一つは、西洋の近代科学による住環境の計画論が唯一のものでなく、東洋独自の方法も存在してきたことを明らかにすることである。もう一つは、実地の風水環境にふれることによって、地形、地物の性状

の観察をすすめ、居住の場としての適合（吉凶）を実証的に整理してゆくことにある。これらのことは建築の中の風と水を強調する研究作業でもあり、自然重視型の安全な住環境計画設計の指針づくりに役立つことだろう。

調査は、1983年8月15日～30日の16日間、台湾にて行った。調査地点は45地点、うち分類整理をして、主要な33地点をここに掲載している。台中市、台中県、彰化県、南投県の調査は、台中市在住の地理師・張金水氏の協力をえて、現地での議論を重ねながら風水環境を記録していくという方法をとった。



写真-1 風水調査風景  
(中央は張金水地理師)

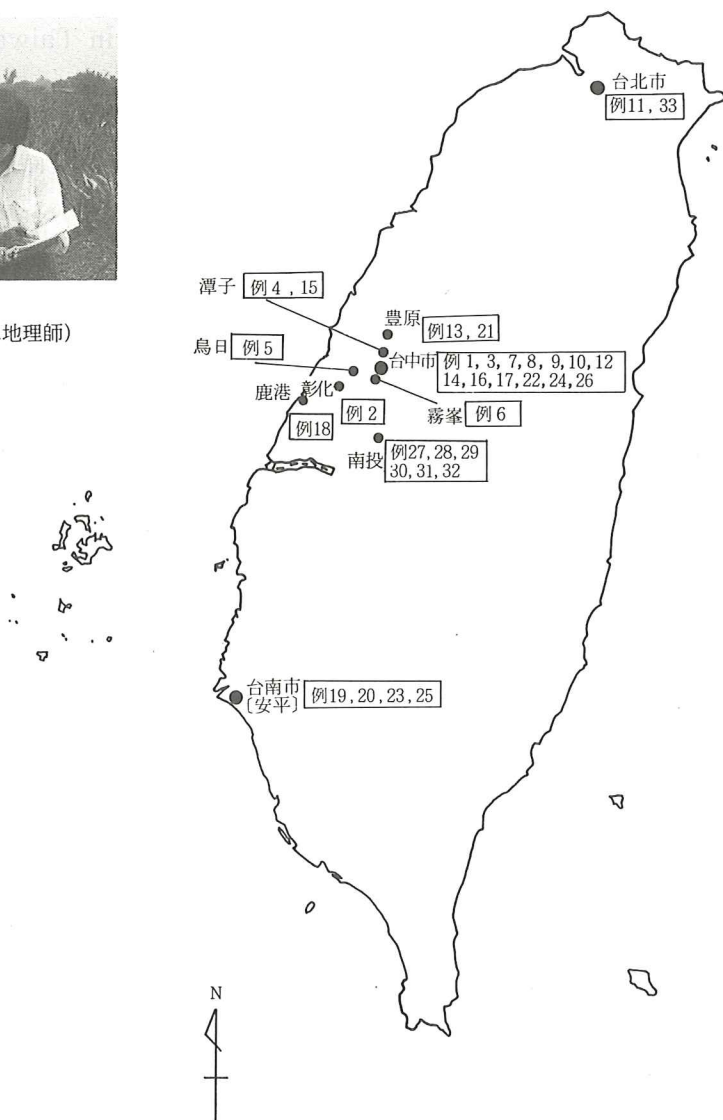


図-1 台湾における調査地点位置図

## 2. 風水概念と住環境

風水は「堪輿（カンヨ）」「地理」「地術」「風水地理説」とも呼ばれている。易学（易経）が風水の基本となっている。

中国文化の中心であった黄河中流地域の気候風土の中で、いかに安全で住みよい家をつくるかの長年の工夫、生活の知恵を、風水、陰陽、五行説によって飾り、論理づけたものが風水説である。

始まりは5,000年前の黄帝の頃、白鶴仙師が仁人孝子の親の遺骨を安らかにするために考えたものといわれている。中国では古くは都を定めるのも、皇帝の墓を決めるのも地理風水によったので、皇帝の厚い保護を受け、国師とされる立派な人が現われた<sup>(6)</sup>。唐朝時代に、永久に皇帝とならんがために、国師一行禪師が他国を威圧しようと数十種類の卦例をわざと偽造した。このため今日まで五行は複雑で、まちがいが伝わっている<sup>(7)</sup>。戦国時代末期のほぼ前漢時代に陰陽五行思想をかりて原理が整理され、後漢時代に大道から万物が生じるとする道家思想に併入して後世に伝えられた。漢の青烏子の葬術、東晋の郭璞の葬書、宋の曾文辿・頼布衣などの術士がいた。唐から南宋が全盛期で、清時代後になると考証学が盛んになったが流派が増え、邪術も蔓延した。西洋の科学思想の導入後は徐々に人々に採用されなくなってきた<sup>(8)</sup>。

流派については多説あるが、風水の残っている台湾をみると、大きく三合、三元、五星、九星、倒杖、倒影の六大派に分かれている。地形(形勢)については論理的に似かよっているが、方位のほうが分派し複雑化していて、始まりは地勢からではないかと推定される。

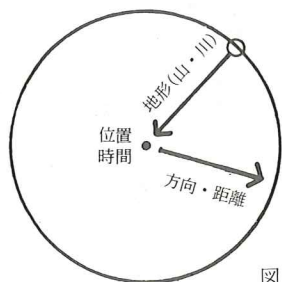


図-2

風水の構成要素としては、山(防風靠山)、水(防水靠河)、方位、陰陽五行(陰陽選方位、五行選山形地形)が基本になっている。運用には位置(穴場)、方向(方位)、距離(賓主相迎)、時間の四つの重点が考えられお互いに不可分の関係がある<sup>(9)</sup>。地理風水では土地と

水は万物を生かす力を持ち、この力の強弱如何によって、人生に吉凶禍福をあたえるものである。土地と水に存在する自然霊気は人体に大きな影響をおよぼすから、風水では天地の霊気の集中点を求めて、そこに住宅やお墓を置くと、家族の幸福がえられ将来に子孫から立派な人が出ると考えられている。このように住宅、墳墓、大きくは集落、都市、国土から、小さくはインテリア、テーブルの置き方までも関連して、そこでの富貴貧賤を風水によって考究している。なぜ風水は富貴貧賤をつかさどるのか、科学的には、天然自然の場合として包と反の関係、人工の場合としてコの字型(三合院)を参照されたい。

風水は一般的に生者の居宅に関わる「陽宅風水」と、死者の墳墓に関わる「陰宅風水」とが区別されている。双方の根本的な原理は同一である。また扱う対象のスケールの大小の差による原理の違いもみられない。

中国では「仰天観於天文、俯以察於地理」(『易繫辭傳』)(天下を知りたいならば頭をあげて天文を観察し、頭を下げて地理を考察すればよい)の文句や、「孟母三遷」(孟子の母がわが子のために、墓地から市に、そして大学の近くに三たび住まいを移したという故事)の教えがある。これらは環境と人間の結びつきの強さを示す味わい深い言葉であり、風水の基本姿勢ともなっている。

## 3. 風水の理想郷

地形は多種多様にある。八卦は方位を固定するが、風水(地形)は形が変わり必ずしも一定しない(移步換形)。風水では、人間生活の総合的な環境として最も望ましい形というものを、方位にかかわりなく定めている。そして、その地形や建築環境が阻害されると健康を害したり出世しない原因とみなし、栄養のバランスが崩れるかの如く解する。ここでは、風水の理想的な住環境を物理的な地形、建物の空間構成をとらえながら述べてみる。

はじめに防風および防水のために、山の形と川の流れをみてる(未看山先看水、有山無水免尋地)。平地においても微地形をみて山と川をさがす。原則として、天然自然の安全条件にそって建てたものが本物である。土地は地霊に合って傑出した人物を生むことができ、日あたりがどうかなどは方位(東、南、東南向)および建築から決められる。日あたりのよい所は湿気がないから、病菌がでにくく、男が生まれる。日あたりのわるい所は湿気が多く、病菌が多すぎて病気になる。



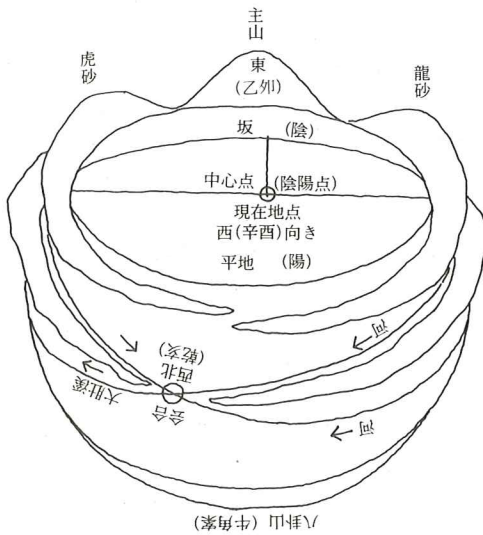


図-3 風水による理想的な地形環境の一例 (南投県)

子供が生まれる時は女が生まれる。水は財にたとえられ、山は人丁（家族の場合は男が多いこと）にたとえられる（山管人丁，水管財）。

南投県軍功寮において望ましい地形の例を実地に記録した（図-3）。地形は後ろ（主山）ができるだけ高く、前（明堂）は平坦で吐唇の型にするのがよい<sup>(10)</sup>。深い谷があったり、前がすぐ坂なのはよくない。後ろの山は中央の主山が最も高く、両脇に少し低い山（砂）がひかえて三台山の形をなし、山の峰が幾重にも取りまいて保護し、大きくコの字型をして左右のバランスがとれ後ろの主山の大きいものほどよい。コの字型で囲うとよいのは、風が入り地温が風で奪われるのを防ぐことにある。盆地に立地する集落や都市が多いのは、風を避け水が適度にあり防害がないことで、風水にかなったよい地形となっているからである。逆に全面が平地型だと風水害に抵抗できない。坂（陰）と平地（陽）の交差する中心点にものを建てるのがよく、土地を深く掘りかえさないことが原則である。

中国の地形をほめる諺に「五樟樹下澡采紛披，八把山前英華發越」と「座萬円山（穴）看牛角案，做得到台湾的田園得一半」がある。この軍功寮の地は萬円山の山脈のうちの小祖山から出た第五番目の山で、前方には牛角の形をした八卦山を望むことができ、この地点に住宅あるいは墓をついたら将来生まれる子供は英雄か偉人になるといわれる。

次に住宅についての理想型をみている。大風，大水

にあっても安全なようにコの字型の住宅形式（三合院）が発明された。風が直接あたると住人に不安をあたえ、不吉になる<sup>(11)</sup>。風水により三合院の真正面の部屋（正庁）を正身といい、両側を護龍という。龍は多いほどよい。左側は長男、右側は次男の家族の住まいにあてられる。風が防がれると気が集まる。水が周りを取りまくのがよい（蔵風聚氣，得水環包）。両側の龍が守っているため、気が守られて暖かい気温が保たれる。建物の高さは正庁を一番高く、徐々に左右、前方になるほど低屋根にしてコの字型（三合院）とする。

前には池と花木があって、後ろは果樹林や竹山とする。前に花や木を植えるときは左右のバランスをとる（護衛將軍の如く）。池の大きさは住宅より大きくしないほうがよい。易学で太極は内向を禁じることにより、外側に丸く半円形の池を配置する（水が環包の如く）。池の水から蒸気が発生して家人にうるおいを与え（銭財が収集の如く）、程よい湿気を人体にあたえる。また池で鰻や鯉を飼って食用としたり、水面に住宅を映してその美しさをひきたたせることもできる。裏山には竹や果樹を植えて、強風を防止し、流行性感冒その他の流行性病菌が空中から防止でき、動物の害や崖崩れを防ぐだけでなく、食用，薬用，また生活用品のための竹細工の原料としている。山手からは涼しく新鮮な空気と酸素も運んでくれる。

『營造宅経』に「四神相応の地」といわれるものがあり、それによると「住宅左（東）の環包の丘（砂）内

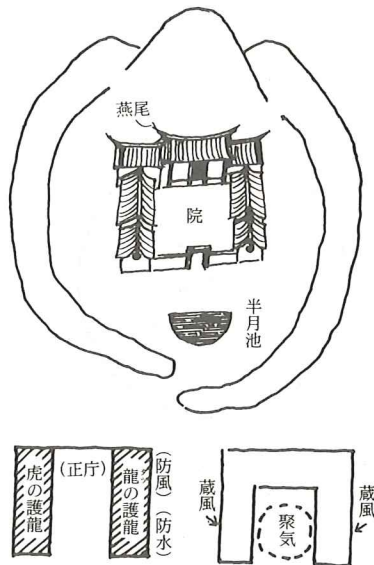


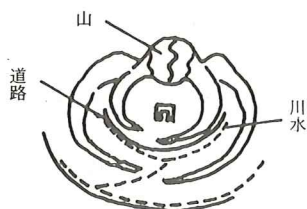
図-4

側に静流水ある、これを青龍という。右(西)の環包の丘(砂)外側に長道ある。これを白虎という。前(南)に半月形の池および吐唇形小丘(砂)がある。これを朱雀あるいは寶砂という。後(北)に丸く、肥く、高い丘陵ある。これを玄武あるいは主山という。すなわち最貴の地…」とされている。建築的にみても、北風を防ぎ、南の通風、採光もよく、東の小丘および静環包の河川、西の小丘および環包の道路も理想的である。このような土地は平城京、平安京、江戸城などにみられ<sup>12)</sup>、風水の活用例といえよう。

#### 4. 風水環境の類型

現地調査をとおして風水環境の分類を試みた。よい住環境とわるい住環境を峻別するときの吉凶概念をとりだし、住環境の形態的要素に着目して類型化した。

##### (1) コの字型(三合院)とアンバランス

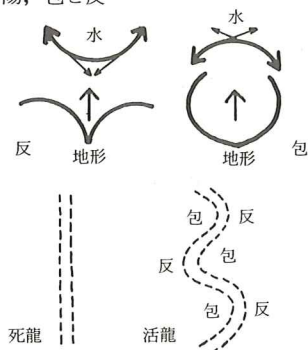


それによると、(1)よい住環境と称せられる典型的な基本型(コの字型)のあることが一般的に指摘できる。住宅を中心点に据えて、背後の山は三台山の形をなして高く両側にまわり込み、前方はひらけている左右対称の型をよしとし、金騎椅に似ている。こうしたバランスが崩れるとわるい住環境に変わっていく。次に部分的にみると、よいところは守られていて、なおかつ、よい条件が入ってくるようになっている。(2)よいわるいの区別と、湾曲する勢相の安全な内側(包)と危険な外側(反)のいずれになるかどうか、(3)よいものはうまく入ってくるようになっているかどうか(逆水と順水)。更に、わるいものが直接入りこむのを防御することもできる。(4)突きあたり、巷路、(5)形の五行、方向の五行がこれに該当する。他に、(6)類形によって人に及ぼす影響を考えている。以上のものが認められた。

山を背にして湖に面する所がよい地勢。コ字型の理想的な地勢。平坦で、左右が迫らずバランスを保ち、明堂はひろびろとして、土潤い泉甘く、光沢陽気あって、竹木叢茂して、その気が盛なるのを吉とする。コ字型が大きければ住宅(三合院)、小さければ墓とみなせばよい。環境が変わりコ字型のバランスをくずしアンバランスになるほど凶へ傾く。方位よりは地形のほうが重要である。地形がわるければ、方位がいくらよくてもよい結果にならない。

- 例1 台中市大慶街 林湯盤先生宅
- 例2 彰化県芬園郷 辜頌榮先生の墓
- 例3 台中市樹子脚 林宅
- 例4 台中県潭子郷潭興路 林宅
- 例5 台中県烏日郷螺潭村 某農家
- 例6 台中県霧峯郷 林宅

##### (2) 陰陽、包と反



陰陽については種々あるが、ここでは風水の陰陽について簡単にのべる。天、地、人にはそれぞれ陰陽があり、地の中に風と水が属する。風と水には陰陽がある。陰の場合は人によくなく、陽の場合は人によい。風の陰は熱風と急風、陽は冷風と静風である。風に音があれば陰に属する。例えば、ヒューヒュー音(台風音)や魔音(悲しい声、寂しい声、騒音)があり、人によくない。陽は音なしの風で人によい。水の陰は濁水と急水、陽は清水と静水である。水に音があれば陰に属し人によくなく、音なしの水は陽に属し人によい。

山龍脈(地形)あるいは水が湾曲の勢相を生とし、

直の勢相を死とする。風水では生気があって生気を運行する活龍<sup>(13)</sup>を求めてここに基を定め、生気のない死龍の地は避ける。勢相は山(山龍)であったり、川(水龍)であったりする。都市では道路、鉄道を水龍とみなす。生気には強弱、善悪があり、吉凶となる。

蛇行する勢相において湾曲する囲まれた内側(包)は吉、外側(反)は凶となる。包は安全地帯で安定している。この根拠を地形と水にわけてのべる。

地形が包の場合は強風を防ぐ力がある。そうすると、例えば空気中の公害を防御することができる。風上に流行性感冒が発生したとか、その他の病菌があった場合にこれを防ぐことができ、交通道路があった場合に車事故の恐れがなく、砂ほこりや排気ガスの恐れもない。その安全地帯では人間や動物は繁栄し、植物は繁茂することができる。逆に地形が反の場合には、以上の関係が逆になり、風が四方八方から入ってきて人間、

動物、植物に害をあたえる。

水が包の場合は大水の恐れがなく、かつ水が汚物や悪臭、わるい湿気を運んでこない。その結果わるい病気になる。人間が元気になったら精神もよくなり、男の子が生まれる。それでお金が儲かる。逆に反の場合は水害の恐れがある。土地がだんだんと流される。そこで人間の命と財産がなくなる。動物、植物についても同様にいえる。以上のように、科学的にも実証できる可能性をもっている。

まっすぐな山や川は、包のよい地が失われることになり凶となる。

例7 台中市正義街 某有限会社

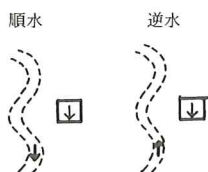
例8 台中市合作街

例9 台中市建国路 某予備校

例10 台中市緑川西街 某ホテル2棟

例11 台北市城中区の円環

### (3) 逆水と順水



川や道において、その流れが向かってくる(逆水)のが吉、流れが遠ざかっていく(順水)のが凶である。水龍は財に関係している。川が住宅の右にある場合は女性に対して、左にある場合は男性に対して大きな影響をあたえる。

風水では、地の高さを陰となし、低きを陽となす。丘を陰となし平坦を陽となす。

商店街についてみると、土地の低い店舗が高い店舗より繁盛する。同じ通りでは凸形の店舗より凹形にひっこんだ店舗が繁盛する。自然な流れにみたてた動きを基本においてとらえていることがわかる。

例12 台中市建成路 某紡織工場

例13 台中県豊原鎮 百姓宮

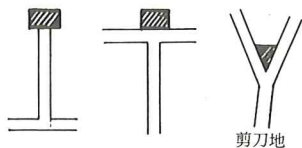
例14 台中市大坑

例15 台中県潭子郷

例16 台中市中正路の商店街

例17 台中市建国路 某食堂

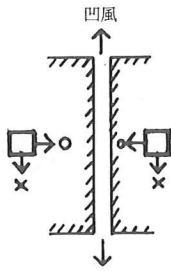
### (4) 突きあたり(路沖と剪刀地)、巷路(凹風)



道の突きあたりを住宅とするのは、風が直接あたって空中間の汚物、病菌がはいりこむために病気にかかりやすいこと(風殺)と、大水がでた場合に被害をうけやすいこと(水傷)によりたいへんよくない。突きあたり(路沖)には、T字路の突きあたりと袋小路のいちばん奥の二つと、剪刀地とよばれる角地がある。住宅の入口または門などに突きあたる道を衝破と名づけ凶である。災い起こるばかりか貧困をつかさどり、永住しがたい。

廟の前と廟の後に直接に面する住宅は凶である(不





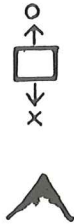
住葬神前廟後) ので、何も無いのがよい。もし建てる場合は、住宅の前に高い壁をつくると凶にならない(住家蓋高墻, 不挡凶)。

- 例18 彰化県鹿港鎮
- 例19 台南市安平国勝路 広濟宮
- 例20 台南市安平 天后宮
- 例21 台中県豊原鎮某廟前の麵店
- 例22 台中市三民路

建物と建物との間の隙間(巷路)は、幅が広く、高さが低く、長さ短いほど風は弱く、狭く、高く、長いほど風は強くなる。隙間風はよくない。風が直接あたると住人は不吉、不安、桃花運になり、風に伝染病菌があると住人に不安を与える。

- 例23 台南市安平
- 例24 台中市仁和路

(5) 地形の五行, 方向の五行



五行説は種々あるが、簡単に形の五行と方向の五行をのべてみる。形の五行は五星ともいえる。木(0直), 火(△尖), 土(□横四角), 金(○半円), 水(〰波曲)である。方向の五行は、木(東向), 火(南向), 土(中央), 金(西向), 水(北向き)である。木と火は日あたりがよく、夏涼しく冬暖かい。金と水は

日あたりがわるい。土はその境である。

門前の真正面に山形をなす住宅の妻や、電柱、煙突があるのは、火形あるいは木形で、急激な風がヒューヒューという悲しい音をたてて入ってきたり、空中の汚物(伝染病菌、ゴミなど)を運んでくることになり大いによくない。山が火形あるいは木形の場合にも、坂になって、大雨と大水をおこしてよく崩れる恐れがあつて大いによくない。土、金、水形については門前にあつてもよいが、門より高くしてはいけない。圧迫感をあたえることになり、電波の防害もある。風には影響はない。土、金、水形の山は坂でないので崩れる恐れはない。次の類物化の類型に近い。

- 例25 台南市安平
- 例26 台中市民生路

(6) 類物化



風水がいかに動物、花、その他の形勢に重きをおくかの例である。単に生氣のある所を求めるだけでなく、その土地における形勢類物の種類、性質、人生への影響を考えねばならないとしている。甲と類似する物は甲と等しき力を発揮する類物信仰を発生するもので、風水説発達過程で取り入れたものと考えられる。地形に物語性が付与される場合が多い。

- 例27 南投県名間郷〈象の鼻, 獅子形の山〉
- 例28 南投県名間郷〈鳥形の山〉
- 例29 南投県名間郷松柏嶺 受天宮〈緞形の山〉
- 例30 南投県竹山下横街 某宅〈牡丹山〉
- 例31 南投県延平圳〈照鏡形の山〉
- 例32 南投県中興新村〈虎形の山〉
- 例33 台北市 台北小城〈魚形〉

## 5. 風水の実例

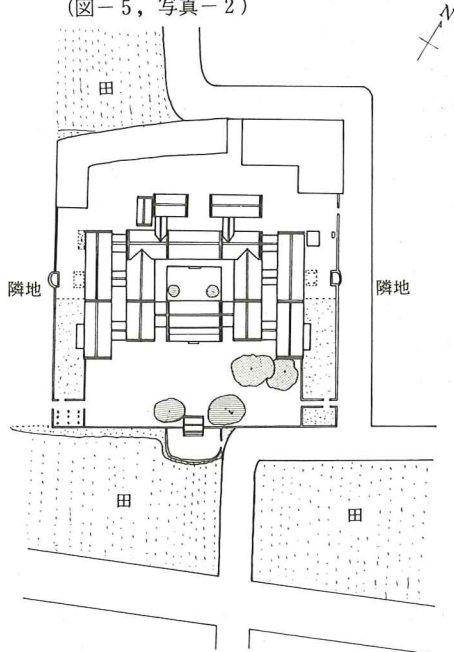
例1 台中市大慶街 林湯盤先生宅  
(図-5, 写真-2)

図-5 林湯盤宅の配置図(台中市)

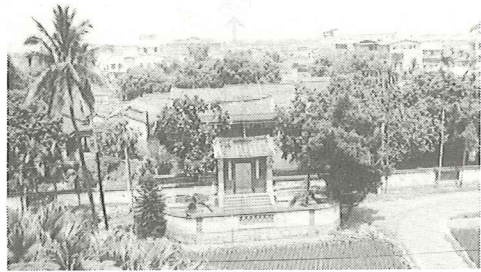


写真-2 林湯盤宅全景(台中市)

林宅は土蔵造と木造、夏涼しく冬暖かい。約130年前の建造で、敷地は約2,000坪。前を流れる川は林宅の周囲を丸く巡り、敷地入口の正門部分は外側が丸い半円形の塀で囲われている。林宅は、四合院を基本として外側左右に護龍があり、大小の庭をたくみに配した美しい建築物である。建物後方の空地は竹山であり、花木葉草などもかつてはつくられ、風水地理条件がよいので、林家では国家議員、工専校長の要職につく人が出ている。惜しいことに、近年高い建物が立ちはじめ、周囲の風水地理環境が妨害されている。

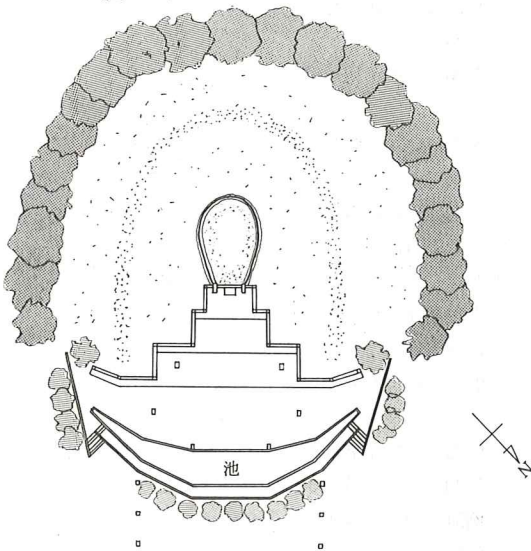
例2 彰化県芬園郷 辜頭栄先生の墓  
(図-6, 写真-3)

図-6 辜頭栄墓の配置図(彰化県)

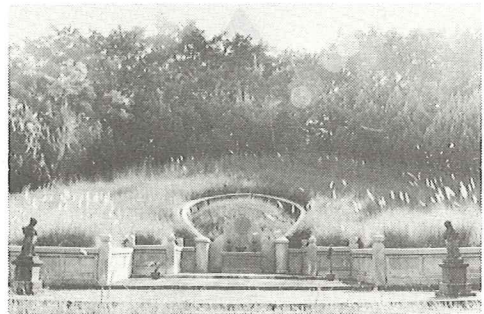


写真-3 辜頭栄墓(彰化県)

昭和11年建造。後ろの山を主山とよび、主山は必ず両側の山より高いほうがよい。右の虎砂、左の龍砂の山がのび、墓を抱くようにコの字型をなしている。後ろは三重に龍が巻いて生きているようである。後ろが大きいほど子孫により影響がある。前の池は外側に向かった三ヶ月形をして、包の部分は広場、反には余り高くはない木が植えられている。明堂は大きくひらけ防害物がないのがよい。はるか前方には中央山脈が望まれ、台中地区全部の水の流れが此地に向かっている。また大肚溪の川の流れが大きく此地を取り囲むようにして天然自然の曲りをなしている。この風水環境が破壊されていないので、辜家の子孫が今も発展している。



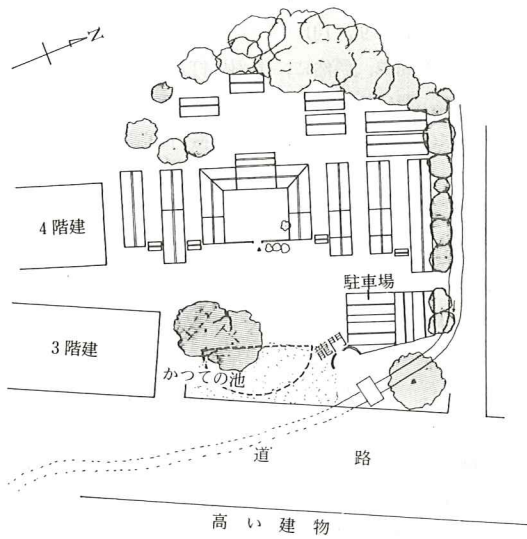


図-7 林宅の配置図（台中市）

例3 台中市樹子脚 林宅（図-7、写真-4）  
土蔵造と木造、約120年前の建造で敷地は約5,000坪。かつては風水どおりにつくられ相当な財閥であったが、今は住宅の前に道路ができて都市化がすすみ、しだいに風水環境が破壊された例である。かつては川は包であったのだが、今はその上に道路ができて妨害されている。真正面に高い建物があり、風と光線が入らず健康によくない。左の車庫と右の4階建の建物が妨害している。右は虎の頭が上り人を喰う形になるので寿命に影響をあたえる。前の植木の高さも家より高いので人の出世に影響をあたえる。

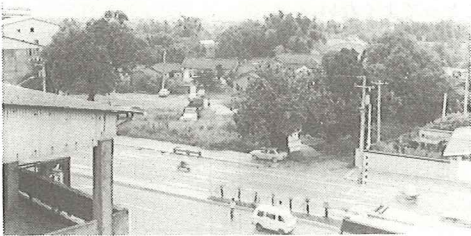


写真-4 林宅全景（台中市）



写真-5 林宅の正面外観（台中県）

例4 台中県潭子郷潭興路 林宅（写真-5、6）  
大正15年建造。西北向き。背後の形勢は主山が両脇の山より高い。以前は前方には川が取りまいて包の地にあり、門前にはかつて湖があり、林家は財閥であったが、周りに建物ができ風水が多少妨害された。右の虎山が破壊され隣地の建物は林家より高くなったために、三合院の右側の住宅が被害をうけて荒れはてている。正門は弓の型になっていて、弓矢が正庁に当たる形になっているため、よい風水の地にありながらきかないようになっている。



写真-6 林宅の中庭全景（台中県）

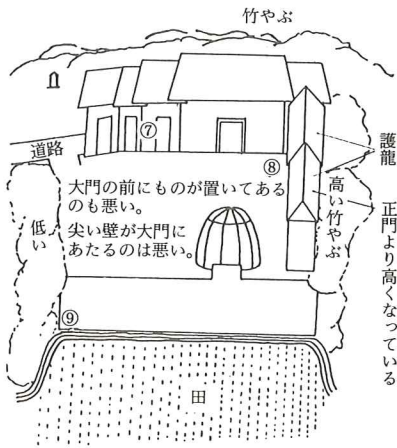
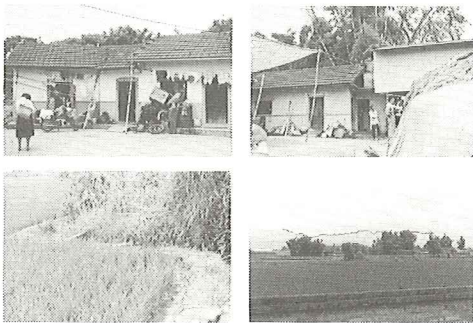


図-8 雷に打たれた某農家宅の全景 (台中県)



烏日郷螺潭村某農家の環境

- |   |   |       |           |
|---|---|-------|-----------|
| ⑦ | ⑧ | 写真-7  | 正庁部分      |
| ⑨ | ⑩ | 写真-8  | 左護龍部分     |
|   |   | 写真-9  | 前壁の外に流れる溝 |
|   |   | 写真-10 | 住宅前の景色    |

例5 台中県烏日郷螺潭村 某農家 (図-8, 写真-7, 8, 9, 10)

調査期間中、偶然に、雷雨に打たれて亡くなった人がいて、翌日その人の住宅の風水を検討した。

農家、東南向き。入口が建物後方右脇から入るようになっていて、左(龍)の建物が正面より高く、左の竹やぶがせり出て、左右のバランスを欠きコの字型でなくっておりよくない。環境が衛生的でなく、龍の方向に便所があった。大門の前に大きな藁山が置いてあり、家の前に三角の山がいくつもあったのでよくない。祖父母のお墓を調べると三角の山に向かっていて、三角山は五行の中で火の形に似ているので、雷の影響がある。

例6 台中県霧峯郷 林宅(図-9, 10, 写真-11)

地理が一家の命運をうらなうという例である。住宅の背後の地勢をみると真中の山が両脇の山より低くなっていて、奴が主人にうらぎる形にもとえられている。実際、数代の主人が奴にうらぎられた実例もあり、よくない。敷地中央に井戸があり湿度が上がって人にとってよくない。

図-9 林宅の配置図 (台中県)

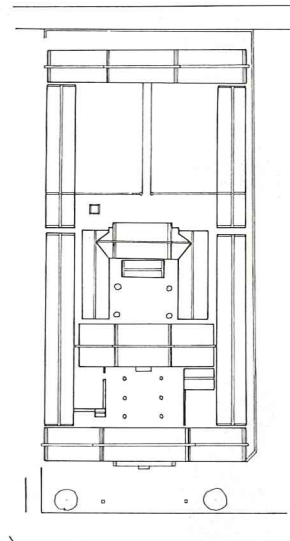


図-10 主と奴の関係

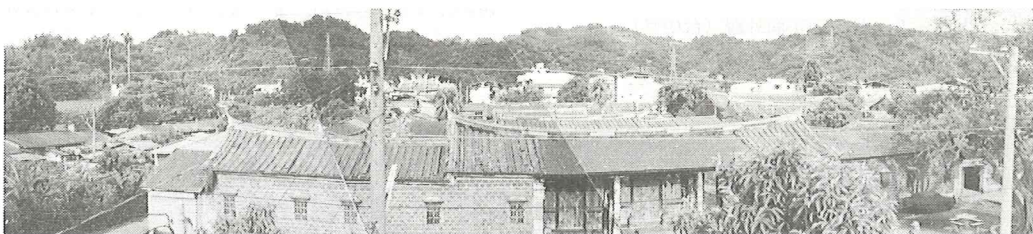


写真-11 林宅の全景 (台中県)

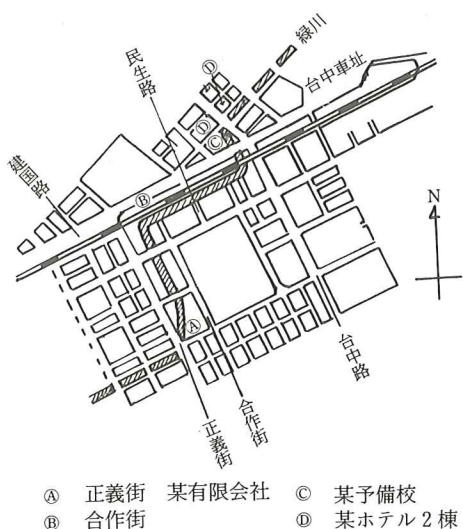


図-11 台中市部分図

例7 台中市正義街 某有限会社 (図-11, 12, 写真-12)

西向き。水の流れが反弓の型になっているのでよくなく、家に犯罪人が出ている。

この場合、入口の位置から順水にもなってお金はたまらない。入口の位置を川沿いにするると逆水となるが、いずれにしても反弓水であるのでよくないということになる。

例8 台中市合作街 (図-11)

北向き、水の流れが反弓の型。反の位置は風や水が川の岸に突きあたるが、包は守られる。水が汚染していると、反の位置は悪臭の風が汚いものを運んできて健康に害をおよぼしたり、水害の危険性が高いので近隣の住宅の不安が高まる。迷信作用をおこして、門前に八卦をかけているのが何軒もあるが、根本的療法ではない。



写真-12 某有限会社全景 (台中市)

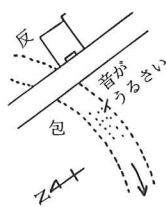


図-12 配置図

例9 台中市建国路 某予備校 (図-11, 写真-13)

予備校の前は川があって、包の流れになるので水害の恐れや悪臭もなく吉となる。実際、この予備校は人気があり繁盛している。



写真-13 某予備校(左)と某ホテル (中央)全景 (台中市)

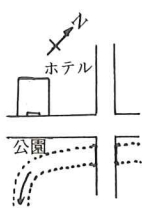


図-13 配置図

例10 台中市緑川西街 某ホテル2棟 (図-11, 13, 写真-13)

ホテルの正門には溝河があって、流れの型が反弓水と反角水になっている。この欠点により毎年赤字で、自殺客もでたりして裁判所からの呼出しが度重なり経営がうまくいっていない。

例11 台北市城中区の円環 (図-14)

幹線道路が交差する円環部分では、円の内部が包となり、円環に面する通り (反弓) よりも賑やかで売買も盛んで有名である。逆に円環外側の反弓の地では、交通事故がよく起っている。ここにおいて反と弓の違いが比較できる。

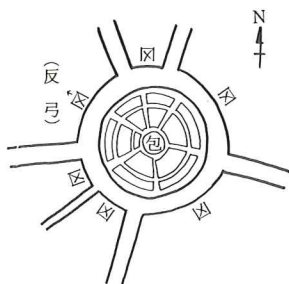


図-14 圓環 (台北市)



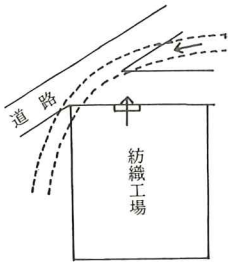


図-15 逆水の例  
(台中市)

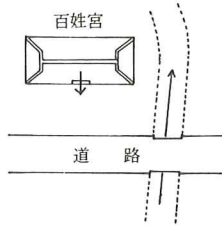


図-16 逆水の例  
(台中県)

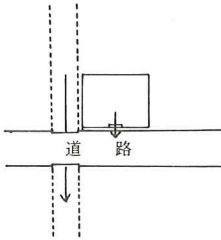


図-17 順水の例  
(台中市)

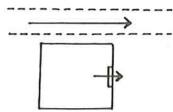


図-18 順水の例  
(台中県)

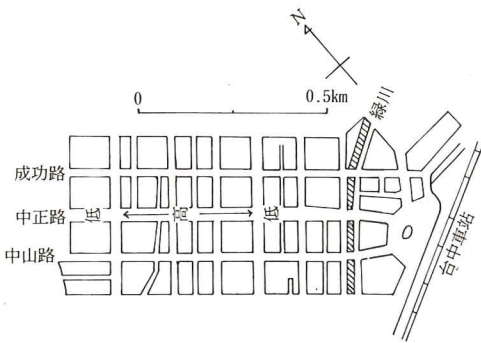


図-19 中正路の商店街 (台中市)



写真-14 建国路の某食堂全景  
(台中市)

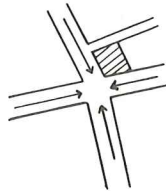


図-20 配置図

例12 台中市建成路 某紡織工場 (図-15)

工場の左側に川があって、正門に対して環包の逆水となつてよい地形となり、工場が儲かっている。

例13 台中県豊原鎮 百姓宮 (図-16)

廟の側に河があつて、河の流れる方向が廟にとって環包の逆水となっている。たくさんの人がこの廟に来ている。

例14 台中市大坑 (図-17)

住宅の右に川があり直流順水となっている。このため、この家の女性に大きな影響をあたえる。一つは身体が弱くなること。一つは桃花運をもっているため、女性はお金を乱費し相手に出させたり、あい嬌があるようになる。不吉貧賤。

例15 台中県潭子郷 (図-18)

住宅の左に溝川があり直流順水となつていて、この家の男にとってよくない。一つは、お金が儲からない。一つは、一旦お金が手に入つてもすぐ使つてなくなつてしまう。将来、貧賤になる。

例16 台中市中正路の商店街 (図-19)

この街路は坂になっている。この場合には凹形の盆地がよい。水が財にたとえられるからである。中正路は、坂の中間よりも下の盆地の商店街の方が繁盛している。階段状になっている場合も同様である。また、同じ通りでも凹形の盆地になつてひっこんでいる所が繁盛する。

例17 台中市建国路 某食堂 (図-20, 写真-14)

この食堂は古い店であるが、交差点に立地して、後ろの建物が高く、龍虎の方向も高く、前もやや高く小盆地になつていて、四方八方から水が流れてくる位置にある。大変よい地形にあつて非常に繁盛している。主人が亡くなつてから、奥さん、子供へとこの食堂経営が受け継がれていづれも繁盛している。このことにより、一般の風水地理説にいう各々の年齢によって住まいの方向が違うという論説は不確実であると指摘できる。

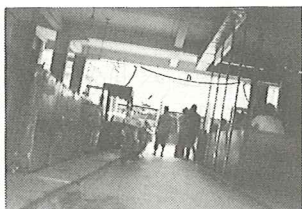


写真-15 廟前の市場, 吉の例  
(彰化縣)

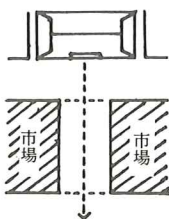


図-21 配置図

例18 彰化縣鹿港鎮 (図-21, 写真-15)

廟の前が道路をへだてて市場になっている。廟の正門前にあたる部分は市場内の通路として活用されて、裏道へ抜けられるようになっていて、廟前の障害物となることを避けている。



写真-16 廟前の住宅, 吉の例  
(台南市)

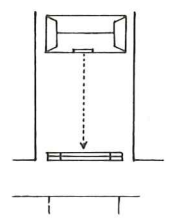


図-22 配置図

例19 台南市安平国勝路 廣濟宮 (図-22, 写真-16)

廟の前には広場があり住宅が面している。この例は、廟前の住宅が直面して凶となるのを避けるために、間に廟形の壁を設けてこれを防いだ例である。このことによって廟前の広場と住宅前の道路も空間的にはっきりと区切られ相互に独立的な存在となった。



写真-17 廟後の住宅, 吉の例  
(台南市)

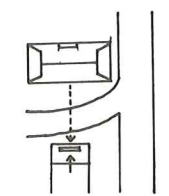


図-23 配置図

例20 台南市安平 天后宮 (図-23, 写真-17)

天后宮の裏側の住宅の二階テラスには、直接、廟に面するのを避けてついでてを兼ねた碑を設けている。

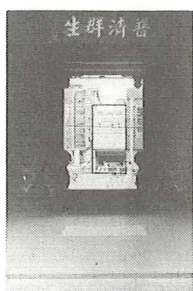


写真-18 廟前の麵店, 凶  
の例(台中縣)

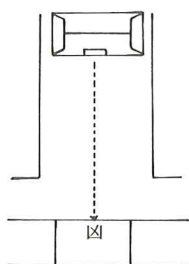


図-24 配置図

例21 台中縣豐原鎮某廟前の麵店 (図-24, 写真-18)

廟の正面に道路をへだてて食堂があるが、この食堂は経営者がよくかわる。そのためにこの店は繁盛していない。廟の屋根の上に三角型がたくさんあり、五行の火にあたり防害率が多いことが災いしている。

例22 台中市三民路

道路が直接に住宅に当たっている場合(路沖)は、風殺と水傷を受けることになり、この家にとってよくない。詳細は前項4-(4)でのべた。

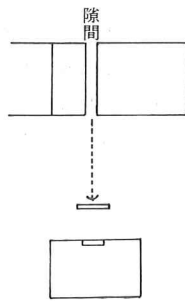
写真-19 隙間の前の住宅  
(台南市)

図-25 配置図

## 例23 台南市安平 (図-25, 写真-19)

前方にある住宅と住宅との隙間の凹風が直接に当たらないように、その正面に壁をつくって一部をもりあげ、家族の平安を祈る碑を設けている。

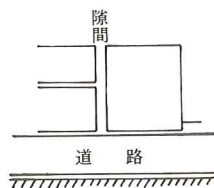
写真-20 隙間の両側の住宅  
(台中市)

図-26 配置図

## 例24 台中市仁和路 (図-26, 写真-20)

北向き。二軒の店が道路に面して並ぶ。間に隙間があるため、両側の家にとってよくない。左の店は、4ヵ月おきに経営者が変わっている。右の店は老女が亡くなり、老男が病気になっている。隙間の陰冷風がいつも病菌を運んでくるので、体の具合が皆わるくなるためである。



写真-21 軒先にある三角屋根と角地 (台南市)

## 例25 台南市安平 (写真-21)

廟後の位置にあるのであるが、廟の屋根の三角破風や軒先の三角燕尾、さらに廟の角に面しているため、これを避けようと二階テラスに碑をたてている。



写真-22 門前の三角屋根 (台中市)

## 例26 台中市民生路 (写真-22)

門の前に高い三角屋根の建物が面しているのはよくない。客が高く立ちすぎて、客と主人のつりあいとれないため平均化しないといけない。また三角屋根をまわり込んで汚れた風が吹きこんできてしまう。



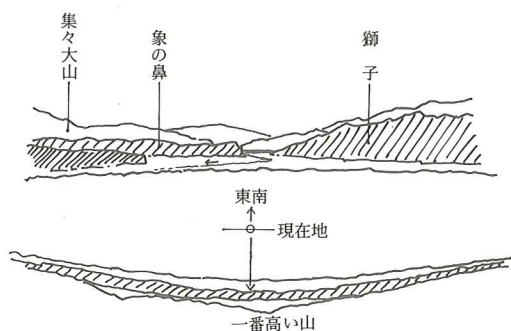


図-27 象の鼻と獅子の山 (南投県)

例27 南投県名間郷〈象の鼻,獅子形の山〉(図-27)  
 東南の方向の地形は、左の象の鼻(旗)と右の獅子(太鼓)が水の出口をふさぐ形になっている。そこには必ず多くのよい地理があり、ここで生まれた子は文武官になる。現在地の畑は円形の丘になって、ここに立てば東南から水(財)がこちらに向かってきて、前の畑がなだらかに丸い地形線を描き、後ろは立体的な丸い地形線が重なって後背地が多く、遠い後方に一番高い山が望める。もしこの場所に住宅やお墓を建てた場合は、よい所なのでよい子孫が出てお金も儲かるだろう(山川有情,山官人丁,水官財)。



図-28 鳥形の山 (南投県)

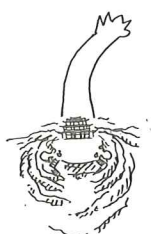


図-29 蝦(エビ)形の山 (南投県)

例28 南投県名間郷〈鳥形の山〉(図-28)

謝氏(台湾パイナップル工場部長)の祖先の墓は、山鳥の山形をした鳥の眼にあたる場所に墓を設けていて、子孫にとってよくなっている。

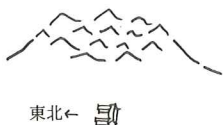


図-30 牡丹山 (南投県)



図-31 鏡形の山 (南投県)

例29 南投県名間郷松柏嶺 受天宮(蝦形の山)(図-29)

廟の立地する地形は建物から見おろすと雄蝦のようになっている。裾が山の尾根で幾重にも両側からとり囲んでいて蝦の脚のようである。遠くには濁水溪がとりまきよい風水を得ている。この廟はもとは平家建て、繁盛していた(香水鼎盛,信徒不絶)のは、蝦の地形が建物とバランスがとれていたからである。その後4階建の建物に建替えたら、信者3名が坐禅の最中に窒息死した。地形が大きくないのに建物が大きすぎてバランスがとれなくなったことが災いをした。



写真-23 虎形の山 (南投県)

例30 南投県竹山下横街 某宅〈牡丹山〉(図-30)

下横街の某家の住宅の両側の屋根をみると、右のは左より高くなって右の方に牡丹山がある。このため、家族の女の子は男の子よりまじめにやっていて、子孫はほとんど一人息子しか生まれぬ。

例31 南投県延平圳〈照鏡形の山〉(図-31)

照鐘山の位置は牡丹山の西側にある。清の時代に嘉慶皇帝が一度ここを見学しにきた時、軍師にここの地理を聞いた。「東の山は牡丹山、西は鏡にうつす山である。」そこで皇帝が、西側に鏡がある場合は日暮れに女が化粧に鏡を使うことになるので、ここは淫売女のでる所かと誤解した。実際は鏡が東向きなので、皇帝の妻になれる貴婦人がでる風水のよい地形である。

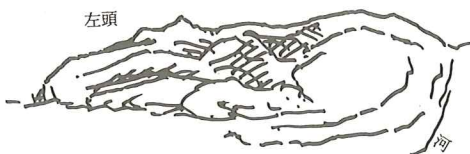


図-32 親子虎 (南投県)

例32 南投県中興新村〈虎形の山〉(図-32,写真-23)

中興新村は虎穴に属している。山の形は母虎が子が抱いて眠っている姿になっている。ある建物が虎の口

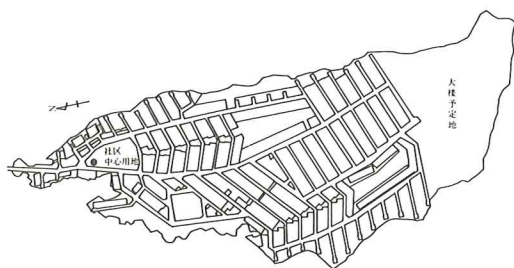


図-33 魚形（台北市）

## 6. 謝辞と参考文献

調査研究にあたっては多くの方々の協力によった。学兄の堀込憲二氏、郭中端さんや、台中市の李滄涵氏、楊維德氏、張文端氏から、建築専門の分野での幾つかの示唆をいただいた。このような形でまとめられたのは地理師の張金水氏の特別な調査協力のたまものであったことも特筆したい。現地調査にあたっては、蕭景文、鄭夙恵、王麗華らの御家族の影の力に負う所が大きかった。皆様の御健康を祈り、ここに厚く感謝の意を表する次第です。

この研究は、長崎総合科学大学、昭和58年度奨励研究(一般)「中国の伝統的住居地の住環境構成に関する研究」によるものである。あわせて感謝の意を表したい。

今後の課題は、住環境以外のインテリア、住宅、都市の領域での風水環境を探究し、三合院住居への理解を深めることにある。本研究の潤達な御批判をお待ちしております。

(1984. 6. 15 村田明久記)

## 脚 注

- (1) 次の言葉が「風水」に対応している。  
(中国語)風水, wu-shui, (韓国語)풍수, (日本語)

の所に建って虎が怒り事件が起った。虎の腹のところに建物を建てるのがよい位置である。

### 例33 台北市 台北小城 (図-33)

ある住宅地計画において、平面計画上、角地がでた。ここが魚の目にあたる所というので、地理師の提案によりそこに地区のシンボルとして噴水を設け、住宅地入口に門を設けることになった。

家相, (英語) feng-shui, Chinese geomancial science

(2) de Groot: "The Religious System of China" CHAPTER XII, p 935.

(3) ジョセフ・ニーダム『中国の科学と文明』第3巻 第14章(a)-(b), p 401, 思索社

(4) C. G. Jung 「易と中国精神」中村健二訳, Richard Wilhelm 翻訳『易経』の序文より, 1950年

(5) 村山智順 『朝鮮の風水』朝鮮総督府編, 国書刊行会, 1931年, p 9

(6) 内藤文穂 『奇門遁甲行動術』修学社, p 117

(7) 『詳図羅経透解』錦章図書局, 民国3年夏上海, 水法

(8) 南海主人 『堪輿学原理』集文書局, p 3-5, p 17-18

(9) 同上, p 49

(10) 「賓主相迎成富貴地, 賓壓主時, 子孫不発達成貧困」(主山は賓山より高くした方がよい。逆になると子孫が貧困になる) が関係している。

(11) 凶の字形は凹の字に風がはいると凶になることを示している。

(12) 『現代の家相と吉相住宅実例・プラン108例』サンケイ出版, 「別冊新しい住まいの設計」p 33

(13) 龍とは土地の起伏のこと。